

会議録（要点記録）

令和 7・8 年度 堺市南区政策会議 第 1 回全体会	
開催日時	令和 7 年 6 月 27 日（金） 17 時 30 分～19 時 10 分
開催場所	南区役所 201・202 会議室
出席 構成員	大島 知子（堺市南区校区福祉委員会 会長） 岸本 啓司（堺市南区自治連合協議会 会長） 木谷 利治（堺市南区民生委員児童委員協議会 会長） 宮岡 愛子（公募） 近藤 誠司（関西大学社会安全学部 教授） 谷口 拓峰（幼保連携型認定こども園 竹城台東保育園 園長） 芳賀 敬子（堺市立茶山台小学校 校長） 三戸口 聖子（堺市立原山台中学校 校長） 井手 夏樹（南海電気鉄道株式会社 まちづくり推進室 泉北事業部 課長） 鈴木 京子（国際障害者交流センタービッグ・アイ 副館長）
事務局 （市職員）	南区役所 中山区長、阿加井副区長、松本副区長 企画総務課長、企画総務課 課長補佐、企画総務課 企画係長、 スマート区役所担当課長、自治推進課長、市民課長、保険年金課長、 生活援護課長、地域福祉課長、子育て支援課長、南保健センター所長 泉北ニューデザイン推進室 事業推進担当課長、企画推進担当課長
議題	(1) 堺市南区政策会議について (2) 座長の選出について (3) 会議スケジュール及び議題について (4) 第 2 期区政策会議の議論を反映した施策・事業の評価検証について (5) 南区の防災の取組について (6) 堺市南区基本計画の振り返り及び次期計画の策定について

配付資料	<ul style="list-style-type: none"> ・次第 ・配席図 ・資料 1 令和 7 年度区政策会議の予定及び議題 ・資料 2-1 堺市南区政策会議 3 つの方向性評価シート（南区独自の防災力向上モデル） ・資料 2-2 堺市南区政策会議 3 つの方向性評価シート（子育て・教育、健康長寿） ・資料 2-3 堺市南区政策会議 3 つの方向性評価シート（南区ブランド戦略） ・資料 3 南区の防災の取組について ・資料 4-1 堺市南区基本計画の評価振り返り ・資料 4-2 堺市南区基本計画（第 2 期）策定に向けた基礎資料について
------	--

審議状況

開会（17時30分）

1 開会

2 南区長挨拶

南区長

皆様におかれましては、非常に暑い日となった本日、お忙しい中ご調整いただき、本会議にご参画いただきまして誠にありがとうございます。

日頃より、南区の様々な面においてご協力を賜っておりますこと、また地域においても多方面でご活動いただいておりますことに、改めて感謝申し上げます。

区政策会議につきましては、第3期が本年度からスタートいたします。条例により区政策会議に関する事項は定められておりますが、南区の実情や特性に応じた区の運営を行うにあたり、様々な立場の皆様からご意見をいただき、それを反映することが、私ども区長および区役所の責務であると認識しております。

そのような観点からも、本会議の場において多様なご意見を頂戴することは非常に重要であると考えております。2年間の任期の中で、忌憚のないご意見を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

第3期の開始にあたり、少し振り返りとなりますが、第1期では「現行の南区基本計画」に基づき、3つの方向性に沿って部会を設置し、取り組むべき事項について議論をいただきました。その中では、南区民の暮らしやすさ、働きやすさ、楽しさ、幸福感の向上、すなわち今日的には「ウェルビーイング」と呼ばれる概念の追求について、施策や方向性をご議論いただきました。

第2期では、区役所が取り組んだ事業の成果を検証いただくとともに、ウェルビーイングの方向性が区民の皆様の思いと合致しているかを確認するため、アンケート調査を実施いたしました。その結果を踏まえ、南区がめざす「一人ひとりのウェルビーイング」とは何かについてご議論いただき、「ウェルビーイング像」をお示しさせていただきました。

これらを踏まえ、第3期においては、まず本年度の最大の目標として、南区基本計画の改定作業がございます。令和8年度から始まる新たな南区基本計画の策定を進めてまいります。

その中でも、ウェルビーイングの基盤となる「安全に暮らす」「安心して過ごす」といった視点から、防災に関する備えについて、皆様からのご意見をいただきたいと考えております。

2年間のスケジュールにつきましては、後ほど改めてご説明いたしますが、次期南区基本計画の土台となる「安全・安心」や、南区の地勢上の課題、防犯・防災といったテーマについて、ぜひご議論いただければと存じます。

皆様からいただいたご意見を最大限実現していくことが、私ども区役所の責務であると考えております。新たな南区基本計画に、皆様のご議論の内容をしっかりと反映してまいりたいと考えております。

様々なお立場の構成員の皆様にご参画いただいている意義も、まさにその点でございます。ぜひ忌憚のないご意見をお寄せいただき、南区民一人ひとりのウェルビーイング、より良い生き方、より良い暮らしの実現に向けて、ともに取り組んでまいりたいと考えております。

毎回限られた時間の中での開催となり恐縮ではございますが、中でも区役所に対するご意見・ご議論を積極的にいただけますようお願い申し上げます。簡単ではございますが、私からのご挨拶とさせていただきます。

本日より始まる2年間、どうぞよろしくお願いいたします。

3 構成員及び事務局紹介

4 議題 (1) 堺市南区政策会議について

企画総務課長

南区政策会議について、ご説明いたします。

南区政策会議は、区ごとの実情および特性に応じた政策形成を進め、特色ある区行政の実現に資するため、区が実施する施策等について、区民の皆様をはじめ、専門的知見をお持ちの方や南区で事業を営まれている方々からご意見をいただき、地域の皆様とともに区行政を推進していくことを目的としています。

第3期の南区政策会議には、公益的活動や教育・子育て支援に関わる方、学識経験者、民間事業者の方、そして公募に応じてご参画いただいた方など、計10名の構成員にご参加いただいております。

これまでの議論の経過についてご説明いたします。

南区政策会議は、2年を1期としており、本年度より第3期を迎えております。

第1期では、南区基本計画における3つの基本方針に対応する部会を設置し、各部会において目標とすべき事項や、それに向けた南区役所の取組についてご議論いただきました。その結果、以下の3つの方向性がまとめられました。

- ・南区独自の防災力向上モデル「あたらしい共助」の輪を広げよう
- ・子育て・教育、健康長寿における「南区ウェルビーイング総合プロジェクト」
- ・「南区ブランド戦略」

第2期では、これら3つの方向性に基づく具体的な取組についてご意見をいただき、また、ウェルビーイングに関するアンケート調査を実施いたしました。その結果を踏まえ、「南区のウェル

ピーイング像」を策定いたしました。

そして、第 3 期となる今期では、第 1 期および第 2 期での議論を土台として、令和 8 年度から開始予定の新たな南区基本計画の策定に向けて、構成員の皆様にご議論いただきたいと考えております。

4 議題 (2) 座長の選出について

<堺市南区政策会議開催要綱第 6 条の規定により近藤構成員を座長に選任>

<同要綱第 6 条第 3 項の規定により岸本構成員を職務代理に指名>

4 議題 (3)、(4)、(5) 会議スケジュール及び議題について 他

企画総務課長

<資料 1 に沿って説明>

今年度の南区政策会議は、次期南区基本計画の策定に向けて、本日開催の第 1 回を皮切りに、第 2 回を 8 月頃、第 3 回を 10 月頃に開催する予定です。

その後、南区選出議員との意見交換会を経て、来年 2 月に第 4 回を開催する計画となっております。

各回における主な議題として、第 1 回となる今回は、現行の南区基本計画の総括を行い、(仮称)次期基本計画のイメージ図および南区の防災の取組についてご説明いたします。

第 2 回では、(仮称)次期南区基本計画の骨子案を提示し、併せて南区の防災の取組について、皆様からご意見をいただく予定です。

第 3 回では、それらを踏まえ、より具体的な(仮称)次期南区基本計画案をお示しし、さらにご意見を伺いたいと考えております。また、南区の防災の取組についての中間報告も行う予定です。

第 4 回では、(仮称)次期南区基本計画の確定版としてのまとめ、南区の防災の取組のまとめ、そして次年度の南区政策会議のスケジュールについてご説明する予定です。

なお、その他の案件につきましては、随時ご説明させていただきます。

以上で、議題 (3)「会議スケジュール及び議題について」の説明を終わります。

<資料 2-1 に沿って説明>

続きまして、第 2 期南区政策会議の議論を反映した施策・事業の評価検証についてご説明いたします。

これらは、第1期南区政策会議においてまとめられた3つの方向性を基に、第2期において施策・事業を実施したものです。令和7年2月5日（水）に開催した第2期南区政策会議第6回会議において、事業の進捗状況および南区による自己評価を説明し、その後、構成員の皆様から評価をいただいております。

資料の構成は、

- 1 ページ目 各方向性の目標、評価指標、南区による自己評価、
構成員の皆様による評価結果
- 2 ページ目 構成員の皆様からいただいた個別の評価・コメント
- 3 ページ目 各取組内容をより具体的に記載
となっております。

それでは、3つの方向性について、第2期構成員の皆様からの評価を中心に説明いたします。

資料2-1は、「南区独自の防災力向上モデル」についてまとめたものです。各指標および自己評価は資料のとおりです。構成員の皆様からは、「非常に評価できる」「評価できる」の合計が100%と、非常に高い評価をいただいております。

資料の裏面には、構成員の皆様からのコメントを記載しております。

主なコメントとしては、

- ・防災訓練の充実や校区間での交流など、一定の効果があったと感じる。
 - ・今後、暮らしの中で防災が根づくにはどうすればよいかを考えることが重要。
 - ・小中学生や自治会以外の世代も防災に関心があるが、参加しにくさがある。防災士の養成にあたっては、自治会の後継者や地域の担い手に過度な負担をかけない工夫が必要。
- といったご意見をいただきました。

<資料2-2に沿って説明>

こちらは、「子育て・教育、健康長寿などにおける南区ウェルビーイング総合プロジェクト」についてまとめたものです。各指標および自己評価は資料のとおりです。構成員の皆様からの評価は、「非常に評価できる」「評価できる」が合計93%、「あまり評価できない」が7%となっております。

主なコメントとしては、

- ・地域のニーズを柔軟に取り入れながら、子どもから高齢者まで一緒に楽しめるイベントを増やし、健康で活気あるまちづくりに寄与してほしい。
- ・健康相談の比率からも関心の高さがうかがえる。
- ・重要なのは、本人が改善しようとする意欲を持つことであり、個別対応が可能な運動型の

健康支援事業を検討することが評価につながる。

といったご意見をいただきました。

<資料 2-3 に沿って説明>

こちらは、「南区ブランド戦略『みどり』とともにかなえる豊かなくらし」についてまとめたものです。構成員の皆様からの評価は、「非常に評価できる」「評価できる」の合計が 100%となっております。

主なコメントとしては、

・ロゴマークやホームページ等による発信力の向上が、南区ブランドの浸透につながったと感じる。

・今後は「みどり」に関する体験活動の裾野が広がることを期待する。

・ブランディングは短期間で効果が出るものではないため、現時点での評価は難しいが、外部発信を継続してほしい。

・「みなみ・みどりのわくわく教室」では体験園数の増加が顕著であり、保護者アンケートからも一定の効果が確認できた。今後は、障害のある子どもや外国人家庭など、多様な背景を持つ住民にも参加してもらえよう、受け入れ体制や情報提供方法の工夫が必要。

といったご意見をいただきました。

以上、第 2 期南区政策会議の議論を反映した施策・事業の評価検証についてご説明いたしました。

自治推進課長

<資料 3 に沿って説明>

令和 3 年度から令和 4 年度にかけて実施した第 1 期南区政策会議において、「南区独自の防災力向上モデル」を策定しました。5 つの柱として、「オール南区での防災意識の向上」、「誰一人取りこぼさない防災福祉の推進」、「新しい共助の形の確立」、「防災人材の育成」、「防災情報の共有手法の拡充」を掲げています。

これらの柱を具体化するため、令和 5 年度から以下の事業を実施しております。

まず、自主防災組織実務者連絡会では、区内 20 校区の防災担当者が参加し、情報共有や意見交換を行っています。これにより、校区間の交流が活性化し、防災・減災に対する意識がさらに高まりました。

令和 6 年度には、ビジネスチャットを活用した自主防災組織の連絡網の整備や、共助による避難所への情報共有手法の拡充を進めております。令和 7 年度も引き続き、防災意識の向上と校区間の連携強化を推進してまいります。

次に、防災士養成プログラムについてです。各校区における防災人材の育成を目的とし

て、防災士資格取得講座を開催しております。令和 6 年度からは、資格取得後に各校区で防災士として定着・活躍していただくため、「防災士スキルアップ学習会」を実施しております。

現在では、防災士を含めた研修会も開催しており、校区の自主防災訓練において指導者として活躍されている方もいらっしゃいます。

続いて、小学生防災リーダー養成講座についてです。夏休みにオリエンテーションを実施し、秋には防災デイキャンプを開催しております。これらの取組を基に、令和 6 年度には区内 18 校の小中学校で防災授業を実施いたしました。令和 7 年度も、学校と連携しながら、防災人材の育成および防災教育を推進してまいります。

その他の取組としては、

- ・「南区避難生活ガイドブック」および「妊娠中・子育てファミリーのための防災ハンドブック」の作成
 - ・EV 車を活用した自主防災訓練への参加
 - ・災害時にも利用可能な衛星通信「Starlink」を活用した訓練の検討
- といった施策を実施しています。

さらに、令和 7 年度はこれらの事業に加え、南区内の主要 3 駅における災害時の駅前滞留者対策や、避難行動要支援者への対応にも着手する予定です。

近藤座長

「安全・安心」の部分については、資料に記載された評価結果を見ると、「非常に評価できる」「評価できる」がそれぞれ 53%と 47%で、合計 100%となっております。

ただし、この数字からは、評価はされているものの、十分な手応えを感じているとは言い切れない印象も受けます。評価に「A」を付けた方ばかりではないという点からも、今後の改善に向けた議論が必要かと思われます。

また、「誰一人取りこぼさない」という視点について、どこまで支援が届いているかという点も重要です。構成員の皆様からは、障害のある方や高齢者への支援を今後さらに充実させたいというご意見も寄せられているようです。

小学生・中学生による防災の取組については、他地区と比較しても非常に素晴らしい広がりを見せていると感じております。今回は「忌憚のない意見を」とのことですので、ぜひ率直なご意見をお寄せいただければと思います。

また、残りの 2 つの柱についても説明がありました。ウェルビーイングに関する取組では、「子育て・教育」「健康長寿」といった広い領域において、「あまり評価できない」との意見も一部見受けられました。これは、高い理想を掲げているからこそ、現状ではまだ十分ではないという認識によるものと受け止めております。今後の改善点も多くあるかと思ひますし、防災との連携を

図ることで、より効果的な取組につながる可能性もあると考えられます。

最後に、ブランド戦略についてです。ブランディングは非常に難しい分野であり、私自身、情報学を専門としておりますが、ブランドの評価は内部関係者へのアンケートだけでなく、南区外の方々にもロゴマークの浸透度を尋ねることも有効ではないかと考えております。今回の評価の中には、「現時点では評価対象にすべきではない」とのご意見もありましたが、これは非常に建設的な視点であり、今後の方向性を考える上で参考になるものと感じました。

資料3の防災に関する説明もいただきましたが、特にこの部分は今後の施策に直結する重要な内容です。何か感じたことやご質問などがございましたら、ぜひお声をいただければと思います。

大島構成員

第1期の初期段階では、主にお話を中心で、政策として具体的に実現するまでには至らなかった印象があります。第2期では、計画的に「こういうことをしていきましょう」という方向性が示され、実際に取組が進められたと記憶しております。

先ほど話題に上がったロゴマークについてですが、最近では、Tシャツなどにもロゴマークが使われているのを見かけることが増えており、徐々に定着してきているのではないかと感じております。

また、防災に関する取組についてですが、昨年、小学校の参観に参加した際、防災に関する授業が行われており、子どもたちが自分たちで考えた防災の内容を発表している様子を見て、大変素晴らしいと感じました。これを地域の方々にも知っていただけたらと思い、保護者の方々にも資料をご覧ください、地域の防災の場で子どもたちが発表できる機会があれば良いのではないかと考え、校長先生にご相談いたしました。

先生からは、「日曜日に子どもたちを参観として参加させることは難しいが、参観日に地域の方が来ていただくことは可能です」とのご回答をいただきました。そこで、今年度は小学校の参観日に合わせて、防災に関する展示を行い、一室をお借りして地域の防災活動を紹介し、参観の時間には子どもたちが調べた内容を聞かせていただく予定です。

このような取組が継続されていけば、現在期待されている「中学生との防災活動」だけでなく、小学生の段階から十分に貢献できるのではないかと考えております。特に5・6年生であれば、私たち高齢者よりも頼りになる場面もあるかと思しますので、ぜひ今後もこのような活動を続けていただければと願っております。

近藤座長

小学生が立派に育って、ぜひ中学生になっても高校生になっても防災の担い手として成長してくれるといいなということだと思いますし、今、防災士の事業もやってきたわけですね。10

年、10年もたらずして小学生が防災士になってくれたらとか、そういうつながりが、循環が生まれるといいなということだと思います。

岸本構成員

私は第1期から参加させていただいており、皆様と共に第3期を迎えることとなりました。

南区では、「誰一人取り残さない」という理念を掲げておりますが、「誰一人取りこぼさない」ということには、現実的には困難な面も多々あると感じております。そうした課題を少しずつ取り除いていくためには、きめ細かな活動が必要であると考えております。

特に、要支援者への対応については、表に出ている方々への支援だけでなく、表に出ている方々への支援も重要です。中には、支援を必要としながらも「公表したくない」とお考えの方もいらっしゃいます。そうした方が一人でも存在すれば、「誰一人」という理念は達成されません。そうならないためにも、支援の仕組みを構築していくことが、区政策会議の役割の一つではないかと考えております。

また、構成員の皆様には、南区のロゴマークについてもご存じいただいているかと思います。学校関係などを通じて、子どもたちへの浸透も進めていきたいと考えております。区長をはじめ、皆様の思いが込められたロゴマークは、第2期において紆余曲折を経て承認されたものであり、今後さらに浸透させていきたいと願っております。

子どもの防災教育についても、徐々に浸透してきていると感じております。学年別の制限や規制にとらわれることなく、学校全体で取り組む姿勢が重要です。小学校・中学校を通じて、南区では「誰一人知らない」ということがないよう、防災に対する意識の向上を図ってきたいと考えております。

近藤座長

岸本構成員からの「誰一人取りこぼさないというのは相当難しい」というご指摘については、非常に重要な視点であり、私たち一人ひとりがしっかりと認識しておく必要があると感じました。この言葉は、南区政策会議におけるキーワードとして掲げられておりますが、簡単に使ってしまうがちな表現でもあります。実際に福祉の現場に携わっている方々にとっては、その実現がいかに困難であるかを日々痛感されていることと思います。

鈴木様も、福祉の現場でのご経験を通じて、こうした課題について深くご理解されていることと思いますので、ぜひそのあたりのお感じになっていることをお聞かせいただければと思います。

鈴木構成員

前年度までの取り組みでは、小学校・中学校への防災教育が積極的に行われ、成果がしっかりと表れていたと感じています。だからこそ、そこで終わるのではなく、今後も継続的に、小学

生や中学生といった若い世代が、防災の知識に興味を持ち、楽しみながら意識を高められるような取り組みを続けていただきたいと思います。

「誰一人取りこぼさない」という考え方についてですが、私はもともと文化系の分野にいたこともあり、劇場などのイベントでは「誰もが」「みんなで」といった言葉がよく使われます。理想的な言葉ではありますが、「みんな」とは誰なのかを具体的に想像しながら活動することが大切だと思います。

防災の分野でも同じで、今年度は要支援者向けのマニュアル作成が計画されていますが、「要支援者」とはどんな支援が必要な人なのかを明確にする必要があります。障害者といっても車椅子の方だけではなく、外国人の方もさまざまな言語が使われます。支援が必要な人の実態をしっかりと見極めたうえで、マニュアルや活動を考えていくことが重要だと感じています。

もう一つ大事なのは、災害がいつどこで起こるか分からないという点です。個人の自宅や学校だけでなく、たとえばショッピングセンターや駅など、支援が必要になる可能性のある場所についても想定しておくことが必要です。特に、普段は高齢者や障害のある方があまり訪れないような商業施設では、災害時の避難誘導について職員が十分に理解していないこともあります。事前にどんな備えが必要か、どんな対応が求められるかを学ぶ機会があると良いと思います。

すべての人を対象にすると、範囲が広すぎて焦点がぼやけてしまうこともあります。まずは対象を絞って、確実に取り組めるところから始めて、少しずつ広げていくという方法も一つの有効なアプローチではないかと考えています。

近藤座長

「みんなとは誰か」という問いについては、大学の哲学の授業でも取り上げられており、いわゆる“Who are we?”という問題として知られています。つまり、「みんな」という言葉が具体的にイメージできなければ、結果として誰も救えないということにつながるのです。改めて、重要な視点を共有いただき、ありがとうございました。

木谷構成員

防災に関して、私からも少し申し上げます。

まず、自宅避難を基本とすることが重要であると考えております。そのうえで、安否確認を最優先事項として位置づけることが大切だと思っております。災害発生時には、3日から4日、あるいは1週間程度を自宅で過ごせるよう、日頃から備えをしておくことが必要であり、その意識を地域の皆様に広く浸透させていくことが求められると感じております。

また、地震と一口に言っても、東南海地震や上町台地を震源とする地震など、種類によって対応の仕方が異なる可能性があります。そうした点も踏まえ、南区の防災対策においても

多様なケースを想定した検討が必要ではないかと考えております。

さらに、先ほど鈴木構成員からもご発言がありましたように、小中学生への防災教育については、すでに中学校など校区単位で取り組まれている事例もございます。こうした取組をより多くの方に知っていただき、防災の重要性についての理解を深めていくことが、今後も継続して必要であると感じております。

近藤座長

自治体によっては、「元気な方や自宅が無事な方は避難所に来ないでください」といった方針を明確に打ち出し、キャンペーンを行っている例もございます。今ご指摘いただいたように、自宅避難を基本としつつ、要配慮者が避難できる場所をあらかじめ確保しておくことも、非常に重要な視点であると感じました。

谷口構成員

保育園の立場から、防災についてお話しさせていただきます。

小学校から防災教育を始めるという取組は非常に良いと感じております。また、推進委員の養成プログラムと併せて、校区の方々のスキルアップを図る学習を同時に進めていくという点も、非常に意義深いものだと思います。そうした流れの中で、保育園でも子どもたちに防災体験の機会を設けていただけるとありがたいと感じております。

ただ、防災は楽しい内容ではないため、保育園児にとっては難しい面もございます。たとえば、不審者対策の訓練では、警察の方にご協力いただいた際、本気で演じていただいた結果、保護者からクレームが寄せられたこともあり、実施が難しくなった経緯もございます。そのため、小学校くらいの年齢から、より多くの体験を積んでいただくと良いのではないかと考えております。

このような取組を継続していくことで、すべての子どもたちが災害に関する知識を身につけることができるようになると期待しておりますので、ぜひ今後も継続していただきたいと思います。

また、子育て支援に関してですが、以前からウェルビーイングやセカンドステップ、ポジティブ・ディシプリンといった取組について関心を持っており、父親支援事業「ばばてらす」についても存じております。いずれも非常に良い取組だと思いますが、情報が十分に届いていない印象もあります。特にお父さん方はお仕事の関係で参加が難しいこともあるかと思いますが、もう少し広報に力を入れていただくと、より多くの方に届くのではないかと感じております。

私自身、ポジティブ・ディシプリンの授業を一度受けたことがあり、とても良い内容でしたので、ぜひ多くの方に体験していただきたいと思っております。ただ、9時間・9回という受講時間の長さがネックになっている可能性もありますので、その点も含めて工夫があると良いかもしれません。

最後に、ブランド戦略「M&GREENs」についてですが、何らかの付加価値があると、より親しみやすくなるのではないかと考えております。たとえば、M&GREENsのロゴがあると室内遊戯場の利用料が割引になるなど、カードのような形で活用できる仕組みがあれば、より多くの方に認知され、活用されるのではないかと思います。実現は難しいかもしれませんが、そうした工夫があると良いなと感じております。

近藤座長

アイデアもいくつか出てまいりましたので、記録として残しておきたいと思います。たとえば、何かを5回達成すると「みみちゃん」がもらえる、といった仕組みを導入するのも一案かもしれません。ところで、児童施設では現在、月に1回の訓練が実施されているという認識でよろしいでしょうか。

谷口構成員

避難訓練、消火訓練を月1回実施しています。

近藤座長

避難訓練や消火訓練ですが、学校や大学では年に1～2回程度の実施が一般的です。そう考えると、子どもたちが日常的に過ごす空間だからこそ、保育園などではより丁寧に取り組まれているのだと思います。

そうした場所に、小学生や中学生も参画できるようになると、より実践的な学びにつながるのではないかと感じました。

芳賀構成員

小学校での授業と関連づけて、防災教育についてご紹介させていただきます。

本校では、4年生の社会科において警察や消防の仕事について学習する単元があり、その延長線上に防災の学びが位置づけられています。避難訓練は学期ごとに1回実施しており、1学期には地震による火災を想定した訓練を行っております。この際には消防車の来校や消防士の方による講話など、実際の現場に触れる機会も設けています。

2学期には、不審者の侵入を想定した訓練を実施しており、これは先ほど谷口構成員からご紹介がありました。

3学期には遊放時避難訓練として、休み時間中に地震が発生した場合を想定し、自分自身で身を守る行動を取る訓練を行っております。子どもたちも「いつどこで起きるか分からない」と口にしてはいますが、いわゆる正常性バイアスの影響もあり、実際の場面を想像するのは難しいように感じています。

そうした中で、茶山台小学校では、上神谷小学校、若松台小学校、若松台中学校と連携し、「学校群」としての取組を2年前から進めております。昨年度は、若松台中学校の1年生が防災について学習した内容を、茶山台小学校の4年生および若松台小学校の5年生に向けてプレゼンテーションする機会を設けました。地震や台風による河川氾濫など、様々な災害に対する備えについて、グループで調べた内容を発表してくれました。

選抜された中学生の皆さんによる発表は非常に熱意が感じられ、聞いていて大変頼もしく思いました。

このように、年齢の近い子どもたち同士が学び合うことで、防災への意識が少しずつ現実的なものとして根づいていくことを期待しております。

また、「誰一人取りこぼさない」という理念についても触れさせていただきます。これは学校現場でも頻繁に聞かれる言葉であり、授業づくりにおいても重要な視点となっています。ただ、実際には対象の絞り込みが難しく、授業の中でどう扱うか悩ましい部分もあります。

例えば、現在5年生の国語の授業ではユニバーサルデザインに関する教材を用いて学習を進めており、そこから障害者理解の学びへと展開しています。先日は「ビッグ・アイ」や泉ヶ丘駅を訪問し、障害のある方にとって有効な設備について調査を行いました。しかしながら、子どもたちの中には「障害＝車椅子」というイメージが強く、多様な障害への理解がまだ十分とは言えません。

支援学級に在籍する児童に対しても、障害という認識が薄いようで、車椅子を使用している児童がいても「助ける対象」として捉えていない様子も見受けられます。これは、同じ教室で共に学んできたという意識があるからこそ、自然とフラットな関係性が築かれているとも言えるかもしれません。一方で、「要支援者」という視点では、まだ意識が十分に育っていないと感じており、今後の教育の中で丁寧に育てていきたいと考えております。

さらに、ウェルビーイングの3つの方向性についても触れさせていただきます。心身ともに健やかに暮らすという点において、本校では「心も体も元気な子」をめざす子ども像として掲げております。学校では健康診断も実施しておりますが、受診につながらないケースもあり、啓発の必要性を感じております。こうした課題については、政策会議での議論と学校現場の実態を重ね合わせながら、今後の取組を考えていきたいと思っております。

三戸口構成員

本校では昨年度も、防災教育の一環として自治推進課の方にお越しいただき、授業を実施いたしました。南区内の中学校でも、多くの学校で同様の教育が行われており、地域全体で防災意識の向上に取り組んでいることを実感しております。

私自身が強く感じているのは、現在の子どもたちは非常に多くの情報に触れており、防災に関する知識も豊富に持っているという点です。「災害時にはこうすべきだ」といったことは、頭では

しっかり理解しているようです。しかしながら、実際に災害に遭遇した際に、その知識を行動に移せるかどうかについては、正直なところ不安を感じております。

これは防災教育に限らず、各教科の学習においても共通する課題であり、いかに学んだことを日常生活の中で活かせるかが、今まさに求められているところです。防災教育においても、知識を実生活に落とし込み、実際の行動につなげていくことが重要であると強く感じております。

そのような背景から、先般、自治推進課の方に対し、「中学生と地域の方々が一緒に取り組めるような活動はできないか」といった相談をさせていただきました。2 学期には、昨年度とは少し異なる形で、地域と連携した取組を模索していきたいと考えております。

ただし、こうした活動を進めるにあたっては、いくつかの課題もございます。たとえば、休日には地域の方々のご都合が合わず、平日には逆に集まりにくいといった状況もあります。こうした点を少しずつでも解消できるよう、何らかの手がかりを見つけていければと考えております。

また、本校は地震発生時の避難所にも指定されておりますが、子どもたちは避難所での活動にも強い関心を持っています。とはいえ、実際に災害が起きた際に「何をすればよいのか」「どう動けばよいのか」といった点については、まだ十分な経験がないため、戸惑うこともあるかと思えます。そうした実践的な経験を積ませる機会を、ぜひ設けていきたいと考えております。

本校の生徒たちは、「みんなで助け合って生きていく」という意識をしっかり持っています。誰一人として無関心な態度を取る生徒はいません。こうした姿勢が育っていくことで、自尊感情の向上にもつながると考えておりますし、日常生活の中で実際にできることを追求していくことが、今の中学生にとっての防災教育の本質ではないかと感じております。

この政策会議を通じて、そうした取組のきっかけが一つでも生まれることを願っております。

近藤座長

私は、全国で防災教育の支援活動を行っていて、地域の消防団と一緒に土のうを積む作業を中学生と体験することがあります。中学生は土のうの存在は知っていても、実際に積んだことがないというケースが多く、こうした体験を通じて、知識が身体で覚えられるようになります。

高知県では、家具の固定や配置換えの作業を、高校生や中学生が高齢者のご家庭に出向いて手伝う取り組みも行われています。こうした活動は、実践的な学びにもつながっていて、とても有意義です。

みなさんは、何かしらの「手応え」を求めているように思います。知識だけで終わるのではなく、実際に体験しながら防災力を高めていく。そうした取り組みを、皆さんと一緒に探していけるといいですね。

井手構成員

南海電鉄・泉北事業部の井手です。

まちづくりの仕事に携わっている立場から、また小学生の息子を持つ親としての視点も交えて、コメントさせていただきます。

まず、防災力向上モデルについてですが、こどもが防災体験をすると、それを家庭で話題にすることが多く、家族全体に意識が広がっていくことがあります。そういう意味でも、非常に良い取り組みだと感じています。

私自身、親子向けの防災ワークショップに参加したことがあります。土のうの話も出ていましたが、私の体験では、毛布を使って担架のように人を運ぶ訓練や、非常食としてカレーを作るなど、実際に体を動かす内容が多く、印象に残るものでした。こうした体験は記憶に残りやすく、今後もぜひ継続していただきたいと思います。

次に、ウェルビーイングについてですが、こども向けの「生き抜く力を育てるワークショップ」や「セカンドステップ」など、ソーシャルスキルを学ぶ取り組みは非常に興味深いと感じています。ただ、方向性としては子育てや教育、高齢者支援などに重点が置かれている印象があり、どうしてもこどもやシニアに寄りがちなのかなとも思います。

一方で、ウェルビーイングは「誰一人取り残さない」という考え方が基本にあります。若者や中高年層など、表には見えにくい課題を抱えている方も多く、孤独感などから幸福を感じにくい状況にある方もいらっしゃいます。南区でも、コミュニティづくりに取り組んでいる方々がたくさんおられますが、現役世代の方々にも目を向けたケアの視点があると、より幅広い支援につながるのではないかと思います。

最後に、ブランド戦略「M & GREENs」についてです。市役所の方から紹介を受け、グッズもいただきましたが、このロゴが何を目指しているのかが重要だと感じています。緑豊かな地域であることを伝えるのはもちろんですが、ロゴの普及だけでなく、その先にある目的、たとえば住民のシビックプライドの醸成や、移住・定住の促進などがもう少し見える形になると、より効果的な展開につながるのではないかと思います。

宮岡構成員

初めての参加で少し緊張していますが、率直に申し上げると、「南区っていいな」と感じました。皆さんがウェルビーイングを目指して主体的に考えている姿勢がとても素晴らしいと思います。

私は社会教育士の資格を持っており、今後は学校と地域をつなぐ役割を担っていきたいと考えています。これからの社会では「多様性」「共生」「想定外」の3つが重要なキーワードになると思っています。特に防災に関しては、「想定外」への対応が最も大きな課題ではないでしょうか。先ほどの校長先生のお話を聞いて、こどもたちが防災の知識をしっかり持っていることに安心しました。

ただ、その知識を日常生活の中でどう活かしていくかは、大人の役割だと思います。たとえ

ば、区長が突然「今から避難訓練です」と言ったら、職員の方々はどう動くのか。学校でも、校長先生が事前の予告なしに訓練を始めたら、子どもたちはどう対応するのか。そうした「自分ごと」として考える場面を、大人がつくっていくことが大切だと思います。

「自分の命は自分で守る」ことは当然ですが、それに加えて「隣の人の命も大切にしよう」という意識が必要です。今ここで地震が起きたら、私の隣にいる木谷さんを守る。家にいれば家族を、学校にいれば友達を。そうした考え方を、知識とともに理念として持っておくことが大事だと思います。

多様性と共生は、これからの社会に欠かせない価値です。先ほど、配慮が必要な子どもが自然に受け入れられているという話がありましたが、とても嬉しく思いました。東日本大震災の際、避難先に馴染めず家に戻らざるを得なかった子どもがいたという話も聞いています。そうしたことが起きないよう、南区ではどんな人でも一緒に命を守れるような仕組みが必要だと感じています。

「みんな」という言葉についても、私は「今ここにいる人」がみんなだと思っています。どんな人がいても、その人と助け合える関係を築くこと。それが地域に戻れば三原台、南区という単位で、互いに支え合える社会になっていくのではないのでしょうか。

ウェルビーイングの観点では、「困っているから助けて」と言える力を、子どもの頃から育てていくことが大切です。人の力を借りる力は、これからの子どもたちにとって必要なスキルです。子どもはもともと主体的で、自分でやりたいという気持ちを持っています。だからこそ、大人がどれだけ当事者意識を持てるかが問われていると思います。

最後に、ブランド戦略のロゴについてですが、私は今回初めて木谷さんから教えていただきました。避難訓練などはあくまで手段であり、目的が何なのかを大人がしっかり問い直すことが必要だと感じています。

近藤座長

ここに集まっている全員がやっぱり本質的な部分をしっかり、がっちりつuckingていきたいと思っていることは確認できたかなと思います。

新しい共助という言葉で、資料3にもありますとおり、今、宮岡さんにも言っていただいた隣の人の命も大切にしますみたいな思いが込められていますが、どうしても硬い言葉で書いてありますので、このあたりが実質を伴うようにしていくこと、そうした議論ができることがこの会議の役割なのかなと思います。

4 議題 (6) 堺市南区基本計画の振り返り及び次期計画の策定について

企画総務課長

<堺市基本計画の振り返りについて、資料 4-1 に沿って説明>

本資料は、堺市南区基本計画の概要と、各施策とその進捗状況をまとめたものとなっております。南区基本計画は、区民の皆さんが将来に希望を持ち、これからもこの地域で暮らし続けたいと思えるように、南区の将来像と大きな方向性を定めたものです。

資料の 3 ページでは、めざすべき将来像の達成に向けて設定した 3 つの KGI（重要目標指標）をご覧ください。今年度は計画期間の最終年度にあたり、各 KGI の進捗状況も記載しています。

続いて 4 ページでは、各施策の進捗を評価するために設定された 9 つの KPI（達成指標）をご紹介します。現時点で、9 つのうち 4 つの KPI は目標値を達成しており、残りの 5 つについても着実に目標に近づいている状況です。

以上が、現行の南区基本計画の進捗状況です。

<次期計画の策定について、資料 4-2 に沿って説明>

この資料は、次期計画の位置づけや体系を示しています。南区では令和 2 年度に、令和 3 年度から 7 年度までの 5 年間の対象とした基本計画を策定し、これまで様々な施策や事業を進めてきました。その間には、人口減少や高齢化、新型コロナウイルス感染症の影響、台風や地震などの自然災害といった社会的な変化もありました。

今年度策定する第 2 期の基本計画では、こうした状況に対応しながら、南区に住む皆さんがより幸せで健康に暮らせるよう、今後 5 年間の取り組みの方針を示すものです。この計画は、堺市の最上位計画である「堺市基本計画」の方向性を踏まえつつ、「SENBOKU New Design」など南区に関連する各種計画との整合も図りながら策定します。

2 ページ目には、現行計画と次期計画の比較を掲載しています。次期計画では、南区民のウェルビーイング向上を目的に、令和 6 年 1 月～3 月に実施したアンケート調査の結果を反映させる予定です。方向性については、これまで政策会議で議論してきた 3 つの柱を継承し、区民の皆さんにも分かりやすく伝えられるよう、視覚的な表現にも工夫を加えています。

3 ページ目には、計画のイメージ図を掲載しています。これは、第 2 期政策会議で共有されたウェルビーイング像をもとに作成したもので、「世代のつながり」「多様性の尊重」「地域の共創」を土壌とし、「安全・安心」を土台に、「子育て・教育」「健康長寿」「ブランド戦略」の取り組みを進める構成です。スマートシティの取組も活用しながら、「みどりとともにかなえる豊かな暮らし」の実現を目指します。

4、5 ページ目では、次期計画の記載内容の方向性について説明しています。

全体は 4 章構成となっております。

第 1 章：計画の趣旨、位置づけ、期間などの基本事項

第 2 章：統計データやアンケート結果をもとにした南区の現状整理

第3章：南区がめざす将来像の提示

第4章：3つの柱を中心とした具体的な施策や取組の方向性

このように構成したいと考えております。

以上が、次期南区基本計画の概要です。

近藤座長

このあとの議論では、皆さんからのコメントをいただき、それを踏まえて8月の会議で意見を集約していく予定です。資料4-2にあったイメージ図も含めて、今後さらに分かりやすく、実質的な内容にしていくことが求められていると思います。

特に、学校と地域のつながりや、在宅避難を考えたときの地域と家庭の関係など、現状の図では表現しきれていない部分もあります。安全・安心を土台に、子育て・教育、健康長寿、ブランド戦略が育っていくという構成は分かりやすいですが、もっと「一人ひとり」に寄り添った視点が必要かもしれません。

近藤座長

では、岸本さん。1期、2期と積み上げてこられた立場から、今回の計画について感じたことがあればお願いします。

岸本構成員

私は、目標値や数字にはあまり重きを置いていません。数字は設定次第でどうしてもなるもので、達成率が高いからといって、それが本当に浸透しているかどうかは別の話です。

大切なのは、3つの柱にどんな中身を持たせるか。数字の達成よりも、実際にどれだけ地域に根づいた取り組みができたかを見ていくべきだと思います。皆さんと一緒に、実感のある計画をつくっていきたいです。

近藤座長

重要な視点ですね。数字の達成だけでなく、その意味や実際の効果まで考える必要があります。教育評価にも通じる部分があると思います。三戸口先生、いかがでしょうか。

三戸口構成員

生徒たちが南区に愛着を持っているかどうか、少し疑問に感じています。自分たちの住む地域に誇りを持っているのか、という点です。ブランド戦略も、外から人を呼び込むだけでなく、今住んでいる人たちが地域に愛着を持てるような取組が必要だと思います。

近藤座長

事務局の方、愛着度に関する調査データはありますか？

企画総務課長

全市民対象の市民意識調査で「堺市に魅力や愛着を感じるか」という項目があります。南区では「そう思う」が 24.8%、「ある程度そう思う」が 47.4%で、合わせて 72.2%となっています。

近藤座長

愛着の理由まで分かると、さらに良いですね。

宮岡構成員

私は公募で参加しましたが、大学生や高校生の応募がなかったと聞いて驚きました。南区には大きな学校も多いので、若い世代が地域に関心を持てるような仕組みがもっと必要だと思います。若者の声を聞くことはとても大事だと思います。

近藤座長

この点について、事務局から何かありますか。

企画総務課長

今回、南区政策会議第 3 期の開催にあたり、公募を実施いたしました。募集枠としては、一般枠に加え、大学生・高校生枠を新たに設けましたが、残念ながら大学生および高校生からの応募はございませんでした。

しかしながら、南区としては、子どもや若者の視点を政策に反映させることが非常に重要であると考えております。そのため、政策会議の全体会とは別に、大学生・高校生を特別構成員とする専門分野別会議を新たに設置したいと考えております。

第 2 期では「高校生部会」を設置しておりましたが、今回はそれに準じた形で、大学生・高校生を特別構成員とする部会を設ける予定です。

なお、設置時期につきましては、今年 10 月頃を目途に、今後関係機関との調整を進めていきたいと考えております。

近藤座長

ご準備いただいているとのことですので、ぜひ進めていただければと思います。

私自身、次の若い世代に何でも任せるといふ風潮には少し懸念もありますが、それでもやはり若い世代からのフレッシュな意見を集め、それを具体化していくことは非常に重要だと感じています。そうしたプロセスが地域への愛着につながり、さらに新たなエネルギーやアイデアが生まれるという、良い循環が生まれるのではないかと思います。

また、三戸口さんのご意見にもありましたように、もう少し力強さや熱量が伝わるような、イラストレーションなどの工夫も必要かもしれません。現状では少し整いすぎていて、感情が乗り切れていない印象も受けました。

先ほどの議論にもありましたが、「誰一人取りこぼさない」という理念は福祉の根幹であり、ダイバーシティやインクルーシブといった言葉が広く使われている一方で、現実にはまだ十分に実現されていない部分もあると感じています。そうした現状を変えていくためには、制度や枠組みだけでなく、そこに「心」を込めることが必要なのではないかと思います。

鈴木さんのお立場から、今日の議論を通じて感じられたことや、ご意見などがあれば、ぜひお聞かせいただければと思います。

鈴木構成員

教育の場で、障害について学ぶことも大切ですが、実際に出会って一緒に過ごす時間のほうが、理解につながると感じています。車椅子の方に対しても、子どもたちは自然とフラットな目線で接していて、それがとても貴重だと思います。

避難訓練だけでなく、日常の中で障害のある人もない人も一緒に過ごす機会があると、災害時にも自然に助け合える関係が築けるのではないのでしょうか。世代や国籍を超えて、出会いの場をつくるのが大切だと思います。

木谷構成員

少子化が進む中で、南区も将来的に人口が減っていくことが予想されます。30代・40代の定着が難しい状況なので、住環境を整えて、子どもが増えるまではいかななくても、現状維持できるような工夫が必要だと思います。

近藤座長

まさに「愛着を持って暮らし続けられる地域」をめざす計画であってほしいですね。イラストの木の図も、葉っぱ一枚一枚が個性を持っているような、多様性を表現できると良いと思います。

防災は入口であり、そこから教育や福祉、まちづくりを考えていくことが大切です。次回は8月の予定ですので、さらに議論を深めていきましょう。時間管理にもご協力いただき、ありがとうございました。

では、事務局からご案内をお願いします。

企画総務課 課長補佐

本日は長時間にわたり活発なご議論をいただき、誠にありがとうございました。次回の会議は、令和7年8月28日（木）17時30分から開催予定です。改めてご案内いたしますので、よろしく願いいたします。

閉会（19時7分）